

# 県オリジナルイチゴ品種「べにたま」の育成

農業技術研究センター（野菜育種担当）

キーワード：イチゴ、新品種、べにたま

## 1 技術の特徴

県産イチゴのブランド力を高め、産地の活性化を図るため、収量性、輸送性に優れ「とちおとめ」と同等の早生性を有する市場出荷向けの県オリジナル品種の要望が高まっていた。そこで、2012年に食味の優れた「かおりん（埼園い1号）」を種子親に、早生で収量性に優れる「かおり野」を花粉親とした交配から、選抜を重ね、良食味で収量性にも優れた「べにたま」を育成した。

## 2 技術内容

### (1) 育成経過（図1）

ア 極良食味であり炭疽病および萎黄病に耐病性を有する「埼園い1号」を種子親に、極早生で、連続出蕾性と収量性に優れ、炭疽病に耐病性を有する「かおり野」を花粉親として、交雑を2012年度に実施した。

イ 交雑により得られた実生を食味、開花時期、収量等を基準として選抜を繰り返し、優良と認められた系統に系統名「いちご彩6号」を2018年に付与した。

ウ 「いちご彩6号」を2018年度から2020年度まで現地適応性試験に供試し、早生で収量性に優れると認められたため、2021年4月に「べにたま」と命名し、種苗登録出願を行い、同年9月に出願公表となった。

### (2) 品種特性

#### ア 形態特性

草姿は立性で、葉色はやや薄い緑色を呈する。葉の光沢が弱く、葉の表面は凹凸があり波打つ。腋芽の発生は多く、葉柄は長くなり外葉が下垂する傾向にある。草勢は強く、厳寒期でも生育が旺盛であり、草勢の維持が容易である。果梗長及び果房長は長い。また、果房当たりの着果数は概ね10～12果となる。

#### イ 開花・収量性

開花日は「とちおとめ」と比べてやや早く、10月下旬から11月上旬になる。収穫は12月上旬から可能である（表1）。また、栽培期間を通して安定した出蕾、開花を示し、中休みが見られない。総収量は、「とちおとめ」と比較して多くなる（表2）。

#### ウ 果実特性

果形は円錐形、果皮は橙赤色、果肉は白色で、空洞果の発生がやや多い（写真）。また、果皮が丈夫であること、果形の乱れが少ないことなどから収穫調整時の取り扱いが容易である。

糖度は高く、収穫期間における平均が13.4度（2018～20年平均）になる。また、1週ごとの糖度を「とちおとめ」と比較した場合、測定期間を通して「べにたま」の糖度が高くなる（図2）。

酸度は収穫期間の3か年平均が0.54であり、「とちおとめ」と比べて低い。月別の酸度は1月が最も高く、2月に低下し、3月から上昇するという傾向がみられる（図2）。

#### エ その他

炭疽病、萎黄病に対する耐病性は検定中である。

### 3 具体的データ

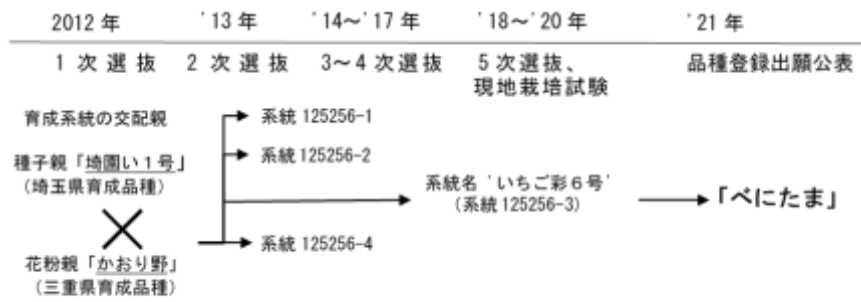


図1 育成経過図

2012年 播種及び1次選抜、2013年 2次選抜（4株1反復）、2014～17年 3次・4次選抜（2014～15年10株2反復 2016～17年6株3反復）、2018～20年 5次選抜（6株3反復）

表1 年度ごとの開花日、収穫開始日の比較

年作	2017		2018		2019		2020	
	開花日	収穫開始日	開花日	収穫開始日	開花日	収穫開始日	開花日	収穫開始日
べにたま	10/30	12/ 9	11/2	12/ 4	10/31	12/ 7	11/ 6	12/ 8
とちおとめ	11/ 2	12/27	11/2	12/13	11/ 4	12/12	11/16	12/28

6株3反復で実施、開花日、収穫開始日ともに平均値を表す  
年作は本ほ定植を行った年度を表す

表2 総収量の比較 (t/10a)

年作	2017	2018	2019	2020
べにたま	3.7 (169)	3.9 (118)	4.1 (138)	4.5 (198)
とちおとめ	2.2 (100)	3.3 (100)	3.0 (100)	2.3 (100)

収量は6株3反復で実施、6g以上の正常果を対象とし、  
収穫開始から4月末まで測定し、7000株/10aで計算を行った  
( )内はとちおとめの収量を100とした比



写真 果実及び断面

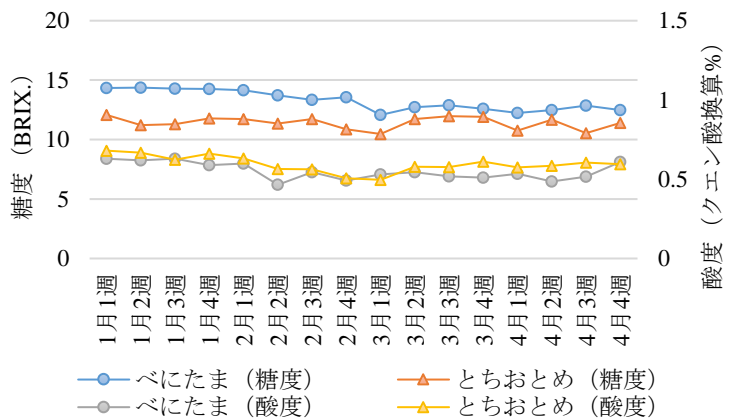


図2 糖度及び酸度の推移

6g以上の正常果を用いて（1～10果/回）2019～2021年の1月～4月、7日間隔で測定した。

#### 4 適用地域

県下全域

#### 5 普及指導上の留意点

- （1）品種の利用にあたっては種苗法を遵守する。
- （2）ハウス内気温が高いと草勢が過剰に旺盛となるため、定植後から加温期まで及び暖候期以降の気温管理に注意する。

#### 6 試験課題名（試験期間）、担当

第Ⅱ期イチゴの県オリジナル品種の開発（2017～2020）、野菜育種担当